

| | 世界のウェルビーイングの動き | 世界のサステナビリティの動き | 朝日エルのサステナビリティ活動 |
|------|---|--|---|
| 1946 | 世界保健機関 (World Health Organization: WHO) が「世界保健機関憲章」の前文に「健康」について記述 注1 | | |
| 1972 | ローマクラブが報告書「成長の限界」で、このまま人口増加や環境汚染が続くと、あと100年で地球の成長は限界に達するという警鐘を世界に鳴らす。 | | |
| 1980 | | 「世界自然資源保全戦略 (World Conservation Strategy)」で、初めて公式に「持続可能性」の概念が登場 | |
| 1984 | エド・ディーナーが主観的ウェルビーイング (SWB) の概念と測定法を提案。注2 | | |
| 1986 | | | 朝日エル設立 |
| 1987 | | 環境と開発に関する世界委員会 (ブルントラント委員会) は報告書『地球の未来を守るために (Our Common Future)』をまとめ、持続可能な発展 (Sustainable development) を人類の課題であるとした | |
| 1990 | | アメリカ連邦議会で「サステイナブル農業」が法案の中で取上げられる | |
| 1992 | | 国連環境開発会議 (地球サミット)」で、持続可能な開発についての行動計画「アジェンダ21」に持続可能な開発のための教育の重要性が指摘される | |
| 1995 | | 気候変動枠組条約：第1回締約国会議 (COP1) | 米国イリノイ州・癌専門CTCA (Cancer Treatment Centers of America) 訪問システム、建物、人材などすべてにサステナブルの概念がある病院として連携 |
| 1997 | | 気候変動枠組条約：第3回締約国会議 (COP3) 京都議定書が採択され、地球温暖化対策の世界的な協調取組が進む | |

| | 世界のウェルビーイングの動き | 世界のサステナビリティの動き | 朝日エルのサステナビリティ活動 |
|------|--|--|--|
| 1998 | 健康心理学と創造性からポジティブ心理学を米理学会会長のセリグマン博士が提唱。注3 | | |
| 2000 | | ニューヨークで開催された、国連ミレニアム・サミットで「国際ミレニアム宣言」採択、2015を年限として～開発途上国の課題解決を目指す | 行政・企業・教育の各機関と市民全体が参画して持続可能な社会づくりを世界でいち早く実践 ミシガン州のグランドラピッツと提携。以降、持続可能な社会づくりの担い手となることを朝日エルの基本方針とする |
| 2000 | | | 日米経済ビジネス文化フォーラム設立：サステナブル社会を担う企業、行政、福祉、教育の連携についてのフォーラム開催 |
| 2001 | | | 米国“ニュートリション・ウィーク”を見学、啓発活動を開始 |
| 2002 | | 国連総会で2005～2014までの10年間で「国連持続可能な開発のための教育の10年」とすることが決議され、ユネスコを主導機関に指名 | 海外報告 アメリカの病院給食の紹介「食」こそ大切に（メディカル朝日）連載 2002年7月号～ |
| 2002 | | | 第1回メディカルフーズ研究会～医・食・農の握手がつくるメディカルフーズ研究会（専門家間の情報交換を進める） |
| 2003 | | | “ジャパン・ニュートリション・ウィーク”『ニュートリション・サークル』：「みつけようニュートリション・サポーター つなげようニュートリション・サークル」ひとりひとりに健康のこと、食事や栄養のことを考えてほしい。何をどれだけ食べるのか自分で選べる力を養い、楽しく食べることの大切さや食文化にも注目し、地域住民全員参加のサークルづくりを提唱 |
| 2004 | | | 日米経済ビジネス文化フォーラムを母体としてサステナビリティ・ビジネス・フォーラム設立 |
| 2004 | | | 「臨床医のためのニュートリション講座」メディカル朝日掲載 |
| 2005 | | 「国連ESDの10年」の推進機関であるユネスコが「国連ESDの10年国際実施計画案」を策定 | 米国ミシガン州にて『食によるヘルスケアセミナー』開催 |

| | 世界のウェルビーイングの動き | 世界のサステナビリティの動き | 朝日エルのサステナビリティ活動 |
|------|----------------|---|--|
| 2005 | | | サステナブル医療の建築及びプログラムを視察 |
| 2005 | | | 美と健康フェア「世界の食養生」日本橋三越本店にて開催：サステナビリティを基本とするC2C農業の紹介 |
| 2006 | | | アキナス大学サステナブル・ビジネス・センターとの契約、締結 |
| 2006 | | | 「ゆりかごからゆりかごへ入門」出版（共著、日本経済新聞社） |
| 2007 | | 第4回世界環境教育会議（南アフリカ・ダーバン） 第4回環境教育国際会議（インド・アーメダバード） | サステナブル医療研修ツアー（医療からサステナブル医療の先進地アメリカの研修セミナー）の実施 |
| 2008 | | | 『サステナブル・ビジネスの現場から』法政大学大学院CSR研究所オープニングシンポジウム開催 |
| 2008 | | | 『サステナブル精神と病院経営～私の経験から医療に生かせるもの～』全国国立病院院長協議会@京都医療センターにてシンポジウム開催 |
| 2008 | | | C2C農業フェア開催（新宿高島屋）「高品質野菜とハーブのマルシェ」開催。硝酸濃度、ビタミンCなどの詳細な分析値を表示、販売。サステナビリティ農業の生産者の取組は、百貨店催事では初の試み※C2C農業パイロットファーム 研究会 |
| 2009 | | 国連ESDの10年の中間年に、ドイツ・ボンにおいてESD世界会議 | Education for Sustainable Development「持続可能な社会づくりの担い手（人材）」の育成のためにNPO法人日本持続発展教育（ESD）推進フォーラム設立以来、毎年「ユネスコスクール全国大会／ESD研究大会を開催 |
| 2009 | | | 「グランドラピッツで学んだこと2008年ハートウェル市長と共に～」教育の必要性の研究を始める |

| | 世界のウェルビーイングの動き | 世界のサステナビリティの動き | 朝日エルのサステナビリティ活動 |
|------|--|---|--|
| 2009 | | | サステナブルなものづくり：ゆりかごからゆりかごへ出版（監修、人間と歴史社） ※岡山県美作大学の2021年度大学入学試験問題に採用 |
| 2009 | | | 『水よし、地域よし、未来よし』の環境人材が育つこと～サステナブル社会のために～ ※賀県立大学環境人材育成フォーラム開催 |
| 2010 | | | 企業の立場からESDの取組を考える（2010環境経営学会研究報告大会－環境経営学会創立10周年記念大会） |
| 2010 | | | 医療におけるリーンマネジメントとは 病院改善デザインとしての「リーンマネジメント」 医学書院『看護管理』シリーズ 看護×デザイン－医療の質を向上させるコラボレーション 【看護とデザインの協働の可能性を探る】 |
| 2011 | | | ESDの理念に基づく取り組みを積極的に実践する学校を奨励する「持続発展教育（ESD）大賞」を設立 （第5回より文部科学大臣賞） |
| 2011 | | | ネスレ（スイス）がCSV活動として展開する健康教育であるネスレヘルシーキッズグローバルプログラム （84か国800万人以上の子どもを対象に取組む（公的機関と協働）の日本での活動を行う：持続可能な社会を担う 子どもたちの健康－夢や希望を持ち、他者と共有するカーを育む |
| 2012 | | 国連持続可能な開発会議（リオ+20） （リオデジャネイロ）宣言文の中で、2014以降も ESD推進を盛込 | ドイツで話題のサステナブルなものづくり「Cradle to Cradle(ゆりかごからゆりかごへ)」の日本の現状に ついて、フランクフルトの新聞社「フランクフルター・ルンドショウ」より取材 |
| 2013 | | | サステナビリティ・ビジネス・フォーラム①「日本流サステナビリティ経営こそグローバルスタンダード」 |
| 2013 | OECDが『主観的ウェルビーイング（SWB）測定の ガイドライン』を発行。注4 | 第37回ユネスコ総会で持続可能な開発のための教育 （ESD）に関するグローバル・アクション・ プログラム（GAP）が採択される | サステナビリティ・ビジネス・フォーラム②「サステナビリティの新潮流」 サステナビリティ・ビジネス・フォーラム③「医療の経営にみるサステナビリティ経営の神髄」 |
| 2013 | | | ファーストリテイリングがUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と取組む難民支援“届けよう、服のチカラ” プロジェクト企画・運営 |

| | 世界のウェルビーイングの動き | 世界のサステナビリティの動き | 朝日エルのサステナビリティ活動 |
|------|---|--|--|
| 2014 | | | シリーズ「キリスト者が担うサステナブル社会」全20回連載 |
| 2015 | 国連総会で採択されたSDGsの宣言文に、身体的・精神的・社会的にウェルビーイングな社会をめざす方向性が盛り込まれた | SDGs（持続可能な開発目標）が国連サミットで加盟国の全会一致で採択され「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された | 東京工科大学と「サステナブルと教育について」の検討会 |
| 2016 | | 日本政府は持続可能な開発目標（SDGs）実施指針を決定「5つの主要原則」普遍性、包括性、参画型、統合性、透明性と説明責任 | 『サステナブル精神と病院経営ー私の経験から医療に生かせるものー』医療勤務環境改善マネジメントシステム普及促進トップセミナー |
| 2016 | | | 対談／持続可能な企業活動とは 岡山慶子×山崎正人（アキナス大学経済学部名誉教授）利潤追求型から持続可能な企業経営へ～誰も悲しませないビジネス～サステナブル社会をつくるのに良い日本流 |
| 2017 | | | 『若草×服のチカラ協働プロジェクトに関する合意書』締結（ファーストリテイリングと若草プロジェクト）をコーディネート。若草プロジェクトと企業との連携の推進、企業と支援の現場を結ぶデジタルプラットフォーム「TsunAが～る」（つなが～る）開設システムづくり・運営 |
| 2018 | | | 第3回サステナブル・ブランド国際会議2018東京 ○「ネスレ スペシャルトラック アイデアソン 人生100年時代のGood Life」にて、ネスレヘルシーキッズプログラム日本版発表「持続可能な社会を担う子どもたちの健康づくりを考える」 |
| | | | シリーズ【持続可能な社会の扉を開けた人たち】月刊社会保険誌22回連載2018～2020 |
| 2019 | 内閣府による「満足度・生活の質に関する調査」2019～ 注5 | | 障がい者の食に関する研究（厚生労働科研との連携【先行研究障害児者の食事調査】） |
| 2020 | | 文科省「新学習指導要領」改訂に「持続可能な社会の創り手の育成」が明記された | SB国際会議では世界初となる、教育分野との合同セッション（企業、地域、教育の3者が結びつくことで真のサステナブル社会をめざす） 全国初！卓球とカフェで元気なまちづくりー公民連携で取り組む「健康寿命」延伸プログラムの成果：ネスレ／桑名市ー教育ー○未来の“地域”をつくり“GOOD LIFE”をつくる私たちの学び ○第1回 ESD Teacher’s Camp in SB Yokohama「教員と企業が意見交換 「日本のサステナブル教育にいま必要なこととは」日本旅行／ファーストリテイリング／日本ケロッグ／東京工科大学／セイコーエプソン |

| | 世界のウェルビーイングの動き | 世界のサステナビリティの動き | 朝日エルのサステナビリティ活動 |
|------|---|--|---|
| 2021 | WHOがウェルビーイングを紹介する文章の中で「健康と同じように日常生活の一要素」として、非常に重要な概念としてウェルビーイングを捉えていることが分かります。 | | 第5回サステナブル・ブランド国際会議2021横浜 医療と共に 一企業・団体とともにーポストコロナにおける人生100年時代に向けて新しい生き方、健康の習慣などから地域創生企業の方向を問いなおす：ネスレ日本／中外製薬／メディコン・BD／一柳ウェルビーイングライフ／KMバイオロジクス／運動器の健康・日本協会 一教育ー〇教育現場から伝えるリアルな次世代像〇第2回 ESD Teacher' s Camp in SB Yokohama「企業・大学のパーパス（存在意義）とESD」：東京工科大学／ベネッセ／ネスレ日本／バリラジャパン／三井不動産／日本旅行 |
| 2021 | 内閣府は「Well-beingに関する関係府省庁連絡会議」を設置し、Well-beingに関する取組の推進に向けて、情報共有・連携強化・優良事例の横展開をはかることとした | | シリーズ「well-being～イキシル社会をめざす」月刊社会保険誌12回連載2021～2022 若草シンポジウム2021 少女たちは世界を変える |
| 2022 | | 経済産業省は、「サステナブルな企業価値創造に向けたサステナビリティ関連データの効率的な収集と戦略的活用に関するワーキング・グループ」設置 | 第6回サステナブル・ブランド国際会議2022横浜 次世代が活躍できる社会を当事者とともに考えるセッションを実現 一企業・団体とともにー 〇The girls have the potential to change the world.～サステナブルな仕事をすること：東京工科大学協力：GEヘルスジャパン／日本放送協会 〇教育こそ大事！ESD教育の神髄とは〇第3回 ESD Teacher' s Camp in SB Yokohama「最新の知見とESD教育の交差点づくり」日本旅行／東京工科大学／ベネッセ |
| 2022 | | | 三重大学、桑名市、桑名市総合医療センター「新しい未来の共創に関する協定」締結に協力 |
| 2022 | | | 若草シンポジウム2022～国際ガールズデーに寄せて「18 歳成人で何が変わるか？」 |
| 2023 | 文科省が教育振興基本計画で「持続可能な社会の創り手の育成」及び「ウェルビーイングの向上」の2つを大きなコンセプトとして掲げる | | サステナブル・ブランド国際会議2023 【SDGs2030年の先を見通す～SDGsとウェルビーイングの関係～】地域、企業、教育が何をできるか Key Note：奥正廣（日本創造学会）「ウェルビーイングは、SDGsの難問を解けるか」 <地域ができること> ①竹上真人（松阪市長）最新のマーケティング、情報戦略、地域活性といったイノベーションを数百年以上前からおこし、これらのDNAを受け継ぎ、地域創生を行う松阪市とともに、“日本流サステナブルウェルビーイング”に迫る。②三井高輝（松阪市政推進会議）脈々と受け継がれている“人を大事にする”経営、三井家の知恵。 <企業ができること> ネスレ日本／MTG <ESD教育ができること>賢明女子学院中学高等学校／認定NPO法人乳房健康研究会／東京工科大学／新日本科学 第4回ESD Teacher' s Camp「対話的な学び」でサステナブルな未来の創り手をはぐくむ最新の知見とESD教育の交差点づくり：ネスレ日本、PWC、ベネッセ、東京工科大学 |
| 2024 | 国連未来サミットでSDGsの次のグローバル・アジェンダを議論する予定。ウェルビーイングはその中心的な議題の一つとなる見通し。（9月） | | サステナブル・ブランド国際会議2024 ①食はすべてのSDGsにつながるーJapan Nutritionは持続可能な社会づくりに貢献する ：中村丁次（公益社団法人日本栄養士会）児玉圭司（一般財団法人KODAMA国際教育財団）岡山慶子 ②ESD（教育）が拓く社会「対話による深い理解と価値ある実践」 〇第5回ESD Teacher' s Camp「違うことを認めて協働する力に変える」（教員と企業が囲む Camp Fire）参加教員とスポンサー企業がサステナブル社会実現に向けて語り合う：住友林業／日本旅行／ベネッセ／東京工科大学 |

| | 世界のウェルビーイングの動き | 世界のサステナビリティの動き | 朝日エルのサステナビリティ活動 |
|---|----------------|-------------------------------------|--|
| 2024 | | | 日本流サステナブルウェルビーイングのための企画 ○学生対象に希望PJ ○障害のある人の食 ○がんケアの社会化 ○がんとウェルビーイング ○高齢社会の女性の健康 ○ESD教育で拓く社会 ○これからの認知症予防、診断、ケアを考える ○アートとケアの対話館 ○困難を抱える人の応援PJ |
| 2025 | | 大阪万博（SDGsを2030まで達成させるためのプラットフォーム）開催 | |
| 2030 | | SDGs（持続可能な開発目標）ゴール | |
| <p>【注】参照</p> <p>注1 現在、様々な文脈で「ウェルビーイング」が語られる際には、このWHOによる「健康」の定義が用いられている。（"Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity."）『健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも現在、様々な文脈で「ウェルビーイング」が語られる際には、このWHOによる「健康」の定義が用いられている。（"Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity."）『健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが 満たされた状態にあることをいいます。（日本WHO協会仮訳）』</p> <p>注2 米国の心理学者であるエド・ディーナーらによって「幸福度」「主観的ウェルビーイング」を測定する研究が始まり、以降、「ウェルビーイング」の定義づけとその達成に向け、何を指標とするかの様々な研究、議論や実践が続いている。</p> <p>注3 セリグマン⇒（幸福でなく）ウェルビーイングを動植物の繁茂・繁栄のようなプロセスとその状態（flourishing）にとらえ、その5要素PERMA（パーマ）を主張、ウェルビーイングは生きるプロセスの質（と状態）評価である。「PERMA」ウェルビーイングの尺度★P=Positive emotionポジティブ感情、E=Engagement熱中（没頭・フロー）、R=Relationship人間関係（対他者・集団・組織・環境）、M=Meaning意義（自己を超えたものへの奉仕）、A=Achievement達成感</p> <p>注4 SWB尺度の3要素(1)生活全体の評価に関する評価的尺度(2)ポジティブな感情とネガティブな感情と情動の最近の経験を捉えた感情的尺度(3)人生における意味や目的の感覚を持つという考えと関連した尺度</p> <p>注5 目的は、「我が国の経済社会の構造を人々の満足度（Well-being）の観点から多面的に把握し、政策運営に活かしていくこと」とされている。</p> | | | |